

一般質問(文責は質問者)

市政を問う

農林水産振興ビジョンについて



新田 勝見 議員
(新和会)

問 市では22年3月までに農林水産振興ビジョンを策定することになっているが、今まで行われてきた100億円アクションプランの検証をすると共に、将来展望も含めたビジョンとなると思う。農林水産含めてこれまで衰退の一途を辿っている。これからの農林業の姿を考えた場合、所得の向上、農業従事者の高齢化、真の担い手の育成、営農指導体制などの課題が山積している。このまま推移すれば農業従事者の9割が

60才以上となる。新しいビジョンにおいて何が部門の中心となるのか、もっとスケールの大きな支援が必要と思われるがどうか。私が思うには、やはり繁殖を中心とした畜産振興が第一と考える。それは畜産プラザの開設や広大な飼料基盤となる牧野の活用が出来ると思うからである。

答 農林水産ビジョンは、一次産業に携わる人が元気になるようなもの、畜産振興を柱に「手取り」を多く出来るようなものにしてほしいと考えている。農業で生活していけるようになれば、自ずと担い手や後継者は育っていくと考える。「手取り」を多くするため

に農業活性化アドバイザー

の配置を検討している。

問 遠野市の総面積の83%が森林面積である。それを生かすために木工団地もある。景気の低迷もあるが、

林業振興を図る上で、地場産材を活用した住宅整備が必要と思う。市では今まで市営住宅や学校など公共施設に木材を利用しているが、民間においても環境に優しい木のぬくもりと景観にも配慮した遠野型モデル住宅にもっと木材を利用し、建築するように推進すべきと思うが。

答 20年度木工団地の出荷額14億円であり、役割は大きい。20年新築着工70戸、うち市内工務店14事業所が54戸8割施工している。

そのうち7割以上が地場産材を活用している。ビジョンも踏まえ、地場産材を活用した住宅整備支援策についても検討していく。



より一層の畜産振興を